

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-63	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	現国 702	精選現代の国語		

1.編修の基本方針

①言葉による見方・考え方を働かせ、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- ・各単元扉に、その単元での学習目標を示すとともに、各教材で学習する主な目標も示しました。また、読解教材の「発問」や「学習の手引き」において、学習が効果的に行えるようなポイントを示しました。
- ・単元内に言語活動教材を配置し、その活動と読解教材との関連を図ることで、「話す・聞く」「書く」「読む」の学習が、有機的・効果的に行えるようにしました。

②論理的思考力や伝え合う力を育み、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。

- ・論理的思考力を身につける教材として、人間・社会・言語などの分野の評論をバランスよく採録、配置しました。
- ・話し合ったり、書いたものを読み合ったりする活動を豊富に配置し、更に相互評価する活動を取り入れることにより、伝え合う力を養えるようにしました。
- ・「共に生きる」と題した単元では、「自立」をテーマにした3編の評論を読み比べることで、社会生活に関するさまざまな考えを検討して自分の考えを深めていくことができるようにしました。

③教材本文とコラム・附録とを有機的に関連させ、多様な学習に対応できるようにする。

- ・教材どうしで、テーマや内容が特に関連するものがある場合には、「関連教材」としてリンクを示しました。
- ・各単元に「評論の読み方」「図書館の利用法」「グラフや写真の読み取り方」「文章を読み比べるために」「引用の方法」「探究学習へのアプローチ」といったコラムを掲載し、さまざまな文章・情報の読み解き方や利用の仕方などを分かりやすく示しました。
- ・「思考への扉」というコラムを3か所に掲載し、読解教材で取り上げられているテーマについて、掘り下げて考えることができるようにしました。また、読書に親しみ教養を高めるために、附録に「読書案内」を設けてコラム「思考への扉」からリンクさせ、各単元に掲載している教材について、テーマや内容が関連する図書を掲げました。
- ・附録には、実用文も含めてさまざまな読解教材を掲載したほか、「評論読解へのアプローチ」「評論文キーワード」「思考ツール」といった資料を用意し、多様な学習に対応できるようにしました。
- ・附録として掲載した「この教科書で学ぶこと」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材について、どんな事項を学習するのかを一覧で示し、学習の見通しや振り返りに生かせるようにしました。

2.対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 自己と他者	<ul style="list-style-type: none"> 本を読むことを対話と捉え、対話を通した自己発見の可能性に言及した評論を用意しました。(第1号) 	→6～11ページ
	<ul style="list-style-type: none"> 最先端の仕事における説明の分かりやすさを通して、「届く言葉」とはどのようなものなのかを述べる評論を用意しました。(第2号) 	→12～17ページ
	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や道順などについて他者に分かりやすく説明する活動を通じて、伝え合う力を育む教材を用意しました。(第3号) 	→22～28ページ
2 認識を深める	<ul style="list-style-type: none"> 自己と世界との関係を確かめる「旅」によって、無数の未知を発見することができるかと論じる評論を用意しました。(第1号) 	→36～40ページ
	<ul style="list-style-type: none"> 水を鑑賞するという行為をもとに、日本と西洋との文化の違いを比較して述べる評論を用意しました。(第5号) 	→50～55ページ
	<ul style="list-style-type: none"> フードロスの問題などを題材にして話し合い、視野を広げながら社会的な課題の解決策を検討する教材を用意しました。(第3号) 	→57～64ページ
3 言葉と社会	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の学習や、日本語と英語における色の認識の違いなどを例に、言葉の意味を知ることについて考察した評論を用意しました。(第5号) 	→78～84ページ
	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップを通してできあがったコミュニティをもとに、まちの豊かさとは何かについて論じる評論を用意しました。(第3号) 	→85～92ページ
	<ul style="list-style-type: none"> 題材を設定して情報を調べ、説明資料にまとめる活動を通じて、社会生活に生きる表現力を養う教材を用意しました。(第3号) 	→108～114ページ
4 共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> 生きていくうえで、相互依存のネットワークを伴った真の意味での自立を身につけていくことが重要であると論じる評論を用意しました。(第3号) 	→120～126ページ
	<ul style="list-style-type: none"> 市場の特質を引き合いに出し、個人の自立について論じる評論を用意しました。(第2号) 	→127～131ページ
	<ul style="list-style-type: none"> 異なる主張の文章を読み比べ、自分の意見をまとめる活動を通じて、主体的に社会と関わる態度を養う教材を用意しました。(第3号) 	→139～143ページ
5 世界を広げる	<ul style="list-style-type: none"> 生命の進化の過程において、一見「無駄」に思える変異が持つ意義について論じる評論を用意しました。(第4号) 	→156～161ページ
	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能との比較によって、人間が「自らの人生を生きる」とはどのようなことかを論じる評論を用意しました。(第1号) 	→162～170ページ
	<ul style="list-style-type: none"> パラスポーツなどを題材に、ポスターセッションによる発表やスライドを用いた発表をする活動により、幅広い知識や教養を身につける契機となる教材を用意しました。(第1号) 	→187～194ページ

3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 中学校までの学習内容とのつながりを図りやすくするため、教材の採録箇所を工夫しました。(学校教育法第51条1号)
- 将来の進路の選択や、一般的な教養を高めることに資するよう、教材の中で多様なテーマを取り上げるとともに、読書案内を掲載して読書へといざなうように配慮しました。(学校教育法第51条2号)
- 社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身につけることができるように、言語活動教材において、スピーチ、話し合い、調査・発表、意見文、説明資料、レポートなどを取り上げました。(学校教育法第51条3号)